

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
<p>○一人ひとりの子どもが、夢中になって取り組む学習づくりを推進し、友達と支え合いながら安心して課題解決に取り組み、粘り強く最後までやり遂げる力を付けられるようにします。</p> <p>○一人ひとりの子どもが、他者の気持ちを思いやり、温かい人間関係の中で安心して学校生活を過ごせるようにします。</p> <p>○教職員が、同僚と学び高まりながら仕事を遂行する力の向上と、同僚と連携し合う活気ある運営組織の確立を進めます。</p> <p>○地域・家庭のニーズを確かに捉え、小中一貫教育ブロックや家庭・地域と連携した実践と、学校評価による改善を通して信頼される学校づくりを進めます。</p>	

(2) 「豊かな心の育成」に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標	具体的取組
豊かな心		たてわり活動や宿泊体験活動などの他者とのかかわりを通して、違いを認め、互いを思いやる心を育てる。	<p>①子どもの実態をもとに、「私たちの道徳」などの教材を活用し、全学級の道徳授業公開を年1回以上実施する。</p> <p>指針1 「道徳の時間」の充実</p> <p>②たてわり清掃、たてわり活動、宿泊体験活動など他者との関わりを通して、基本的自尊感情や社会的自尊感情を育み、規範意識の醸成を目指す。</p> <p>指針2 体験学習の充実</p>
担当	道徳部 人権福祉教育 推進委員会		

2 児童（生徒）の実態（「豊かな心の育成」にかかわる課題）

本校の児童は日々の集団登校や、たてわり活動を通して、異学年で仲良く活動している。自分から友達や地域の方々に挨拶をするなど、明るい心で生活しようとしている。しかし、外国籍あるいは、外国につながる児童の多くが、言葉のハンディキャップ、複雑な家庭環境など、様々な悩みや不安を抱えながら生活をしている。語彙が少ないため、自分の思いを表現することが苦手でトラブルに発展することもある。全学年が単級となり、子どもたちの人間関係をよりよいものにし、「だれもが」「安心して」「豊かに」生活するためには、仲間として互いを認め合い、大切にできる心が育てていくことが課題である。

また、物事にじっくり取り組むことが苦手で、困難に感じたことはすぐにあきらめてしまう傾向も認められる。異学年交流する中で、様々な課題に対して力を合わせて落ち着いた取り組みができるようになってきており、違いを認め合うなかで自尊感情も高めていくことが課題である。

3 「豊かな心の育成」に関する具体的取組

指針1 「道徳の時間」の充実（必須項目） ※道徳教育全体計画・別冊と連動

○道徳教育の要となる道徳の時間の指導を通して、子どもが道徳的見方・考え方・感じ方を多様に広げ、よりよく生きようとする道徳的実践力を身に付けられるようにする。

- ・全学級の道徳授業公開を年に一回以上実施する。
- ・地域人材を活用し、道徳の時間の充実を図る。
- ・学校の教育活動全体で行う道徳教育と、各学級の道徳の時間との関連を図り、豊かな体験活動を生かした指導を展開する。
- ・道徳的価値について自ら考えるきっかけとなるよう「私たちの道徳」を積極的に活用する。 【視点1】

指針2 体験学習の充実

☆望ましい集団活動を通して、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築いていこうとする自主的・実践的態度が育ち、自己を生かす能力を伸ばすことができるようにする。

- ・たてわり活動の充実を図る。
(たてわり活動による集会・スポーツテスト・たてわり清掃・交流給食の実施等)
- ・学校行事や集団宿泊体験の充実を図る。
- ・地域清掃（さわやかデー）等の充実を図る。 【視点3】